

佳作

いいところを見つけたら

岩手県 宮古市立宮古小学校二年 小林 千眞

「一年生になりたくない。」

五才の時、ぼくは、泣きながら言った。ひっこしするから、ようち園の友だちと同じ学校に行けないと聞いたし、学校がどんなところか知らなかったから、とても心ばいだったんだ。

でも、入学するちょっと前、学校には、すごいへやがあるのを見つけた。図書室だ。こんなに本がたくさんあるなら、ぼくが好きな図鑑もある。それから学校に行ってもいいかなと思った。

一年生になって、ぼくは、たくさんの本を読んだ。図鑑のほかにも、学校にはおもしろい本がいっぱいあった。

その中でも、一番のお気に入りは、『ぼくのいいところ』という本。さいしょのページに出てきた「しりたがる」は、まるでぼくみたい。ぼくもしりたが

りや。知りたいことがいっぱいあるから図鑑を読むんだ。わからないことがあるときは、すぐに、

「どうして。」

と聞く。ぼくも、世界のいろんなことを知りたい。この本を読んで「しりたがる」は、ぼくのいいところなんだとわかったよ。

読んでいくうちに、友だちのいいところもわかってきた。

となりのせきのまおみちゃんは、話しかたがとってもやさしい。ぼくが泣いているとき、

「だいじょうぶ。」

と言ってくれた。まおみちゃんのいいところは、「やさしい」なんだ。

ももこちゃんのいいところは、「ひとなつこい」だ。ものまねをして、みんなをわらわせるのがうまい。

「いっしょにあそぼう。」

って、ももこちゃんに言われたら、だれだってすぐにえ顔になる。「ひとなつこい」も、いいところの一つなんだ。

ぼくのいいところをもう一つ見つけた。それは、「ねばりづよい」だ。雪がたくさんふったとき、み

んなはやめようと言ったけど、ぼくは雪かきをつづけたんだ。かんたんにおわらせたら、いつまでたってもできない。あきらめないのも、ぼくのいいところだ。

でも、苦手なことも見つけた。「おもいやる」ってこと。友だちがどんな気もちになるか考えるのはむずかしい。だけど、みんなもぼくも、思いやりのタネをもっている。今はまだつぼみだけど、やさしくすると花がさくと思うんだ。

もしかしたら、「おもいえがく」をつかったら、「おもいやる」もできるかもしれない。ぼくの三つ目のいいところ「おもいえがく」の力で、本を読んでもあれこれ考えるみたいに、友だちの気もちも思いえがいてみよう。そうすれば、ぼくのいいところがもう一つふえそうだ。

二年生になって、ぼくにも、友だちにも、いいところがみんなそれぞれにあるとわかった。今のぼくは、学校が大すぎだ。